

自分タイムってなあに？

—第3学年の実践を通して—

川上公範

1 はじめに

本校では、平成8年度に研究テーマを「自立に向かう子どもたち」とし、テーマ実現のため子どもたちの生活をトータルに見直した。その結果、教科・領域（道徳・特別活動）の中に収まらない学習内容が必要であるという認識の下、「総合的な学習」を創設した。

本校の総合的な学習の特徴は、「活動を通して、自分を見つめ自分を知り、これからの自分の生き方を考える」点にある。その活動のフィールドは、「ふれあいタイム」では、様々な人や自然とのかかわりであり、「自分タイム」では、自分の興味・関心のある内容である。この点で、本校の総合的な学習は、低学年の生活科の延長線上に位置づけられている。

「自分タイム」領域のねらいは、先で述べたが、活動を通して子どもたちに身につけさせたい能力として、次のものを考えている。その1つ目は、その分野で秀でた人を捜しヒントを得たり、本やインターネットなどで資料を集めたりするなど、学習の仕方を身につけることである。2つ目は、自分で課題を設定し、計画を立て、自分のペースで追究し、まとめ・表現し、振り返るといふ、教科と逆方向の学習の経験である。この2点からもわかるように、「自分タイム」の学習は、生涯学習のスタートという性格をもっている。

2 「自分タイム」をものとのかかわりから見ると

「自分タイム」の学習をものとのかかわりという視点から見ると、主に、課題設定と追究活動の過程がそれに当たる。ここでは、その過程における支援について述べる。「総合的な学習」は、第3学年から行われる。「自分タイム」の最初の時間、3年生の子どもたちに、「自分で調べてみたいこと」や「計画を立てて、挑戦してみたいものはないか」と尋ねても、なかなか難しいようである。2～3時間で解決できそうな内容のものを課題としてたてたり、8時間（3年生では、前期8時間、後期7時間に分けている）ではどうしても成らない内容を課題としてたてたりする者もいる。そのため、毎年、オリエンテーションとして、低学年の生活科で行ったことを思い出す場や4年生に去年取り組んだ内容を実物も交えて紹介してもらおう場を設けるようにしている。しかし、今年度は、低学年の先生方が、生活科においてはもちろん、「はてな探し」を常時継続して取り組まれたこともあり、子どもたちの関心が高く、早くからしっかりと課題を決めている者が多くいた。

男		子		女		子	
1	サッカー（キーパー）	11	野球（変化球）	1	ホテルの一生	11	ワッペン作り
2	サッカー	12	野球（変化球）	2	ビーズ	12	アクセサリー
3	ありの研究	13	サッカー（ボールのけり方）	3	ビーズアクセ	13	ビーズアクセ
4	虫の観察・実験	14	魚の種類	4	ワッペン作り	14	おなかの赤ちゃん
5	魚の種類	15	サッカー	5	犬の種類	15	本作り
6	サッカー	16	胃・腸の研究	6	ビーズ	16	リコーダの吹き方
7	野球（変化球）	17	海辺に落ちているもの	7	ビーズ	17	リコーダの吹き方
8	野球（変化球）	18	サッカー（ドリブル）	8	ビーズ	18	ビーズ
9	サッカー（ゴールの決め方）	19	サッカー（ドリブル）	9	アクセサリー	19	ビーズ
10	サッカー（ボールのけり方）			10	魚の生き方不思議		

上の表は、子どもの立てた課題一覧である。特徴は、男子については、いつも外で元気よく遊ぶ子はサッカーや野球を中心に、室内で過ごすことが多い子は調べ活動を中心に課題を立てている。それに対して、女子は、毎年流行が見られるが、今年は、ピーズアクセが中心になっていた。

以上、課題設定における支援について述べたが、ものとかかわりについて他の面における支援について述べる。

- (1)活動計画表・活動記録表
- (2)専科・関連教官との連携
- (3)相談
- (4)図書室・コンピュータの整備
- (5)公共施設での催し紹介

(1)活動記録表は、毎時間の活動後、振り返りを行うが、本時の進み具合を下に次時の活動や準備物について考え記録する表である。次時の活動は、その記録表の確認から始まる。

月/日	活動したこと	振り返り	次時の予定 (活動場所・準備物など)	
6/7	しりょうあつめとへんかきゅうおぼえをした。	しりょうあつめで手まどたから次はやくしてへんかきゅうおぼえの時間を長くしようと思う。	しりょうあつめをやくしてへんかきゅうおぼえをいっばいする 場所(運動場とコンピュータールーム) じんぶ物(ボールグローブ)	見ました -2.6.7 川上
6/21	しりょうあつめとへんかきゅうおぼえをした。	へんかきゅうおぼえがあまりできていないから次はがんばってへんかきゅうおぼえをしようと思う。	へんかきゅうおぼえだけをする 場所(運動場)	見ました -2.6.21 川上
6/28	へんかきゅうおぼえをした。	へんかきゅうおぼえをしようと思った一つのかやけしていたから次はいろいろやろうと思う。	へんかきゅうおぼえをする がんばって一つもおぼえする 場所(体育館)	見ました -2.6.28 川上
7/1	コンピュータールームでへんかきゅうおぼえをした。	へんかきゅうおぼえのゴツをすくってあまゴツする。 ゴツをおぼえが見れなかったから早くしようと思う。	まよめのれんしょうないばい 場所(運動場)	見ました -2.7.1 川上
7/5	へんかきゅうおぼえとまよめのれんしょうをした。	へんかきゅうおぼえのゴツをすくってあまゴツする。 ゴツをおぼえが見れなかったから早くしようと思う。	発表しん番とれんしょう 場所(運動場)	見ました -2.7.5 川上

(2)子どもの活動は多義にわたるが、それに伴い活動場所も様々である。そこで、子どもたちが使用する教室の専科教官や学年単位で行っているので同学年の教官と連携をとり子どもたちの支援に当たった。(3)子どもの活動が行き詰まったとき、一緒に打開策を考えたり、助言を与えてくれそうな人や本を紹介した。(4)子どもたちの活動記録表を下に、図書室で参考となりそうな本を確認したり、事前にコンピュータの点検を行っている。「自分タイム」では、この支援が子どもの活動のレベルを左右する。(5)最近では、様々な公共施設が、子どもを対象にした催しを行っている。その催しの中には、子どもたちの活動内容にあったものも少なくない。そこで、学校ではできない活動や資料を集めることができるように、公共施設での催しを子どもたちに紹介している。

3 「自分タイム」を人とかかわりから見ると

「自分タイム」における人とかかわりの場面は、追究活動中に他の子どもたちや指導者とかかわりも重要であるが、ここでは、発表会での振り返り表について述べる。この発表会は次の流れによって設定される。

- (1)発表グループ数・場所の確認
- (2)各グループの発表時間の決定
- (3)発表原稿・資料の作成・練習
- (4)発表会
- (5)振り替えり

(1), (2)は、朝の会・返りの会などで各グループの子どもたちに聞き、こちらで調整して、子どもたちに知らせた。子どもたちは、(3)それを基にまとめた物や資料を整理して発表のための原稿・資料を厳選し、発表の練習をする。(4)発表会では、男女出席番号でペアーを作り、相手の発表に対するコメントを書き渡すようにした。子どもたちは、もらったコメントを大切に振り返り表に貼り付けていた。

4 評価について

子どもたちの活動をどのように評価するのか。ここで大切なのは、評定ではなく、評価だということである。つまり、その子どもの、その子ならではのことや変化・成長をみとっていくことをねらっているということである。それを基に、その子の理解を深めたり、次の活動での支援のあり方を考えるのに役立つ。以上のことは、総合的な学習が、活動を通して、自分を見つめ自分を知り、これからの生き方を考えるということからも明らかなことであるが、教科教育とは異なる。子どもをみ取っていく観点は以下の6点である。

- | | |
|-------------------|--------------|
| (1)課題設定の能力 | (2)問題解決の能力 |
| (3)自己評価の能力 | (4)ものの見方・考え方 |
| (5)学習への主体性・創造的な態度 | (6)自己の生き方 |

5 子ども達の反応

子ども達は、この自分タイムの時間をどう思っているのだろうか。1人の子どもの活動中の日記を紹介する。

「今日、自分タイムをしました。私は、ビーズを調べて、まとめています。友達と本を調べたり、話をしながら14ページ書けました。自分タイムは、とっても集中できて、友達と協力する時間なのでとってもいい時間だと思います。友達は、本があるところを教えてくださいビーズの本を見せてくれたりするので、それを参考にして作っています。私は、次の時間は、1人でがんばって作りたいと思います。だから、自分タイムの時間を大切にしたいです。」

6 おわりに

今年度、新学習指導要領が完全実施となり、本校においても、それに伴った時間数で総合的な学習を実施している。世論の中には、「総合的な学習」を行ってどんな力が子どもたちに身に付くのかという否定的な考えもある。しかし、一人一人の子どもたちが、自分を知り、そして天賦の才能を主体的に開花させていく学習は、これからの社会においては、欠かせないものとする。

夏休み前の学級集会において、保護者に発表会と「自分タイム」のねらいを説明したところ、夏休み明けに子どもたちが、科学研究を始め、自由研究や様々な工作などに挑戦していたのを見て、「自分タイム」の精神が理解されていることがわかりうれしく思った。

これからも一人一人の子どもが自分の天賦の才能を自ら開花させていく教育の充実に努めていきたいと考える。

